

有宵会だより

第44号
発行所
特定非営利活動法人
岳易館・有宵会
編集 広報部
松戸市新松戸1-64

九星と易断による

四月・五月の運勢

気学では辰四月

四月五日(清明)節入り

5	1	3
4	6	8
9	2	7

生 気
天 道

気学では巳五月

五月六日(立夏)節入り

4	9	2
3	5	7
8	1	6

生 気
天 道
破



一白水星の人の運勢

四月筮一巽為風の九三
五月筮一沢雷随の上六

四月は平穩にすすめ先月の用事は手早く処理、

實際多く金品出費は少なめに気を配る。文書類に

四月は慎重運、急ぎの用事が出ても焦らず。気楽に趣味を楽しみ友情を大事に。電話の長話はムダ、家庭の心配は長老の知恵借りる。睡眠第一と気管と風邪、足腰を休養。

二黒土星の人の運勢

四月筮一風水渙の九五
五月筮一沢水困の初六

四月は地震疲れを忘れて入浴楽しむ。今月は確

実運で背伸びをしない。子供や孫の無理頼み、目

下に尽くす喜び。個人の悩みを解く鍵あり、金

銭は出費立場で不利。体調崩すが回復、足腰疲労

三碧木星の人の運勢

四月筮一地山謙の上六
五月筮一兌為沢の九四

四月は平穩運。毎日をキチンと仕上げる。初心

四月は自重して運を待つ。何事も準備と基礎固めて吉。不意の支出や言葉不足の感違いかからトラブル注意。古傷などの問題は棚上げ、先祖供養の好機。胃腸、口腔に用心。

五月は日常生活は気分転換、仕事や金策は改善方針吉。交際は断りにく

四緑木星の人の運勢

四月筮一地水師の九二
五月筮一乾为天の九四

四月の運氣積極。仕事

は継続が第一で交渉は押していく。人に優しく接

して威言を出さない。若人との交際や軽い冒険に

参加、貯蓄方針で将来の準備。部屋の整頓で気分

五黄土星の人の運勢

四月筮一天山遯の上九
五月筮一風水渙の六四

四月は運氣は安全策を

四月は諸事にわたり注意。見ざる、聞かざる、言わざるの態度が無難、

新規仕事は発想の転換が面白い。対人面で背信者に注意。金銭の出入り多

六白金星の人の運勢

四月筮一火山旅の六二
五月筮一乾为天の初九

四月は火の旅。五月は

四月は何事にも慎重さがあれば安泰。内輪の關係に悩みごと生じ周囲の

調和が大切。旧態堅持で本業一番。古い知人に迷

惑がありそう。震災の事情が残るが奮起し財布を締める。過労と健康管理。

七赤金星の人の運勢

四月筮一天雷无妄の九五
五月筮一艮為山の六四

四月は諸事にわたり注

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

八白土星の人の運勢

四月筮一天沢履の九二

四月は天の雷。五月は

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

九紫火星の人の運勢

四月筮一風天小畜の九五
五月筮一火沢睽の六五

四月は自重運、予定や

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

四月は自重運、予定や目標に対して焦らずに待つ。震災の貴重な体験を活かし明日の糧とする。

福田 有宵

『東北関東大震災』

福田 有宵

三月十一日（金）午後二時四十七分、三陸沖に9・0の巨大地震が発生、大津波は海岸都市を壊滅し未曾有の惨状を示し、その被害は計りしれないものとなりました。

東北関東大震災により被災された方々に、衷心よりお見舞い申し上げます。さまざまな人々の尊い命が失なわれました。大津波による多数の犠牲者に謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

三月に入り観梅の床しさと寒の戻りの冷え、まだまだ肌寒い日が続いた十一日でした。二日前の九日（癸亥六白）に地震と津波20〜30cmがあつたとの事。十一日（乙丑八白）の本格来襲で一瞬にして家も財産も失い、人々は自然の猛威に対してなすすべがなく呆然自失、命の悲喜交々の惨禍でした。

テレビの映像で刻々と津波の爪痕が報道され、直視が出来なかつたのは破壊と残骸の中から累々とした様子が思い浮かぶ

からでした。さて自然災害には、地震、津波、台風、噴火、洪水などがあり、昔からの時代にも天変地異の災禍を繰り返しています。地震予知は難しい事ですが、最近はず知委員会の研究発表がなくマスコミや雑誌に話題性がないのも、安閑と静かに毎日を過ごして来ました。しかし警鐘となる知らせはなかつたのでしょうか、差し詰め南国のニュージールランド地震に遭遇して被害者が出たことなどは、遠い国の事変ではなく近い問題であつたかもしれせん。異常現象としては地震発生の日前に茨城県鹿嶋市の海岸にイルカ50頭が打ち上げられたが、ニュージールランドでも二日前にクジラ100頭が海岸に打ち上げられた事が前兆であるのかと知りたいものです。

また二月に帯状の地震雲が現れ、地震予測をしたとの事。科学界の一蹴で日の目を見ていない現状に、地震雲が研究対象になれば、ほのぼのとした関心が高まる事が請け合いです。

廣井修著の『災害と日

本人』の文中に巨大地震の社会心理について詳述されています。

『災害は天災だからあきらめる』『災害で痛められるのは運命だから』『自分だけは大丈夫』などの観念が生じているわけです。

天譴論 運命論と精神論です。天譴論は天が人間を罰するために災害を起こす、という思想。そこで王道に背いた為政者に対する天の警告などと儒教精神は奈良時代に記録あり。運命論は自然のもたらす災害は、人間の生き死を避けられない運命と考えて、運命は定められたもの、逃げられないと災害の悲劇を運命とする。精神論は災害を克服するのではなく、人間の精神とか心構えを強調する信念。至誠天に通ず、精神一到、一念岩をも通して財産より精神が第一。

この日本人の社会心理と、会員の方々の災害観など比較し考えて下さい。最後は占法において地震予測が出来るかどうかその方法を考えますと、三月盤に地震象意ありと気学で判断が出来ます。

卯	2	3	年	盤
6	2	4		
	7	9		
1				
	卯	3	月	盤
6	2	4		
	7	9		
1				

図の○印部分に地震の象があり、三碧、五黄、八白が震動します。坎宮三碧は海底型地震で、地上に噴出する勢いが強く、そこで震宮五黄に呼応していく。卯月は三月なので兌宮九紫ア破は大津波の様子を示します。

八卦と組み合わせると坎宮に雷水解、震宮に山地剝、兌宮は火水未済です。三卦の解釈により地震が奮い立つので三月、日盤は八白中宮日で東北から東方位を示します。

八卦法による災害の判断については他の機会にお話しいたします。

福田 有宵

一月有宵会報告

山本悠里帆

新年あけましておめでとうございます。今年はどうなるの？ではなく、どんな年にしたいか？皆様も計画や希望を考えての年の初めと思えます。今年もどんな新しい考えを勉強できるのかなあ、と楽しみです。

一月二十九日（土）「足立区こども家庭支援センター」において、NPO法人岳易館・有宵会が開催されました。

第一部 筆相について
「字を変えることで、運命が変わる」
菅原 有恒先生



人も機械も、物事みんな良くすること、それを心に留めてやってきた。良い卦が出た時にも、悪い卦が出た時にも、いかにアドバイスをして、より良い方向へ導いていくか。「人間を生かす卦」易も書も数字も同じ。

「無から有を生じ、極無に至る」
「易簡」（平易簡略）
この言葉が易の真髓だと思う。相手に分かるように、やさしく説明する。これが非常に大事だ。

次に、筆相とは？意識せず書いた字は、本性が出る。健康状態・精神状態、過去と現在の差。

運命学とは、昨日を知る、今日を知る、明日を知る。筆相は運命学ではないが、自分で変えられるものだ。

字を変えることで、性格が変わる、つまり運命が変わる。性格を変えるのは大変なことだが、書道をやると、字を意識的に変えられる。

字が上手・下手、良い・悪いではなく、相手にどんな印象を与えるか。どんな人間になりたいか、その人の思いからでも変

わって行く。

今回は、筆相は観相学と同じという観点にたち、なぜ筆相学が必要か？とのお話を短い時間内にまとめて頂きました。

また書家として、易经六十四卦を、それぞれ一頁ずつに書かれた大作をお持ちとのこと。機会がありましたら、是非拝見したいと思っ



第二部
時運の解明
福田 有宵先生



最近の時局では、
新燃岳の噴火

五十二年ぶりだそうですが、これを気学上の判断でどう見るか。

鳥インフルエンザ
今のところ八カ所だそうですが、まだ蔓延すると思えますか？ 心配です。

花粉の飛散状況
去年は非常に暑い夏であつたため、花粉の材料がたくさんあるので、今年はどうなるか、状況もたらずか、という問題。

タイガーマスクの話題
こういう話題には、多くの人が関心をもつ。身近にありそうなことだから。遠い国のことはあまりピンと来ない。

イレッサ問題
肺ガンの治療薬。国はこの薬の副作用について、面倒は見えないという。このように時運の問題、時とともにどう変わるか、ということ。占法の中でいうと、易学であり気学であるわけです。ほかの占法ではそのあたりがなかなか究明出来ないということ。

今年は十干十二支と九星の組み合わせでいう、辛卯七赤金星。干支の組み合わせの中から、天地の変化であるとか、

社会の世相の問題もその中から極めなければならぬというものがある。

そして九星というのは社会そのものを構成している。この中に、世の中というものがある。それとでもわかりやすい。

最初の条件は、七赤金星が定位盤の中央に入るということ。(このことを七赤が中宮すると言う)ここから周りの星の配置が決まってくる。それで循環している。(遁甲という)世の中がどういう風に変わり、そして移っていくかということ。その星が回座した位置が問題となるわけです。

先ほどの一月に噴火した火山の件ですが、一月は前年から今年にかかる橋渡しの時です。立春の前夜、一月から二月は変化が生じる時です。

平成二十二年は、八白土星が中宮し、坤艮の線上に五黄・暗剣殺があり、地殻の変動や天変地異の起りやすい時。また西南の方角・五黄は休火山あるいは潜在してきた要素である、ということ。

これが表に現れるかどうかということは、暗剣・对冲・回座の状態・中宮

から与えられる影響などから考えていく。乾宮に八白が来て変化ありということだが、大きい変化ではなく、このまま噴火が続くとみる。

「鳥インフルエンザの問題は、どうでしょう。長くなるとおもいますか？」
まず鳥の具合というものをみていくと、数年前から起きています。遡るならばそこから調べなければならぬ。

しかし今は原因より結果に重きを置くならば、昨年はどうであつたかである。

鳥は四緑、次に九紫。昨年は乾宮に九紫、また坎宮には四緑、これが鳥で、まだ押さえられている状態、隠れている。今年九紫に暗剣・破れ、四緑が坤宮に来ている。

再び現れるという場所。コース・現れる場所・被害、そういったことが坤宮に当たるところにある。

新しい所ではないから遠くにはいかない・飛び火しないを見る。今年七中で、兌宮に九紫、暗剣・歳破付。決め手が無い。薬剤による効き目がない、蔓延している

る。震宮と兌宮を地上とみます。食あたりは五黄で、回座した震宮は新たにすると、新旧のウイルスが混ざると見る。ウイルスに耐性ができる、それで薬がきかない。イレッサの問題も同じ。九紫の裏には国であり行政がある。今年度に起きたことはなかなかウンと言わない。しかし国の意志はどうか。六白は巽宮にあり、大義名分・建前はしっかりと出してくる。

しかし本音のほうは九紫で今年はずまくいかない。和解するのは去年だった。薬害は九紫と五黄の状態の配置で見る。

このように気学の読みを深めていってもらいたい、との先生のお話でした。

易と気学による

月運占断

本命 五黄土星

月命 七赤金星

一月 山火賁 九三

本命が坤宮で破れ、うっかり忘れに気をつける。三爻でキーホルダー・指輪をどこに置いたか？歯や書類に注意を。

賁は飾る・楽にしたい、ということ。気楽に行き

ましよう。

三月 雷火豊 九三

豊は今が盛り。これからは下り坂。良い所にいるので、今のままを保つように。平凡さが必要。金銭の消費あり。どのよう

にうまく使うか。浪費や見栄による消費に気を付けよう。

本命 三碧木星

月命 一黒土星

今年の年盤で本命は坎宮。まだ表に現れない。これから先の能力を磨く。背伸びしない。基礎・土台を改めて見直す。支える立場であり、一つ一つ細かく処理をする。また、本命と月命が対沖している

ので、気持に葛藤が生じる。感情は小出しにするように。

震宮に五黄が被同会。あまり変えないこと、梓の中で精一杯出来ると良い。月命が離宮に入るので、気持は出て行きたい、月命が主で生きていく。協調が必要。本命・月命半々の分量で成功。

二月 火水未済 九四
未済は充分な手心え無し。不満・不足を感じる。これからの課題をゆつくり考える。前半より後半に

答えを出す。だんだん出てくる。

三月 天風垢 九二

垢は見通しが甘くなる、状況に左右される。休養が必要、ゆっくりする。上旬は交際面で忙しい。うわさに注意。体調・風邪に気をつける。基礎を生かしたい。坎宮の時はきめ細かい教え方が出来る時（教え導く）ストレスが出やすい。足をすくわれる恐れ。

本命 八白土星

月命 九紫火星

今年八白は乾宮にあり、やる事がある・勢いがある。しかし、月命九紫には暗剣と破れがついていて（いつもは月命の方が我慢をしているのだが）気が持が傷つけられた時、気に入らない時、黙っていられなくなる。しかし、言った事が正しくとも、相手には通じない。ミスになってしまふ。兎宮に暗剣殺しやべつていて、マナー、お金についての時注意。食べ物についての文句を言わない。
二月 雷風恒 九四
恒は常を守る。変えないうで同じ事をしていく。現状維持の方針で。

前半に用事を済ませる。後半に趣味・スポーツの話が出るので、乗る。夫婦はうまくやるように。初旬、人の出入りあり。丁寧に対応すること。邪険にする。中旬に言われる。独身の人は、学ぶべき人・気になる人あり。友人と金銭問題が出る。商売人だと、日頃の付き合いからお金を貸すことになる。

三月 水風井 九三

井戸は大事なものの、同じ事を繰り返さない、努力が必要で、やっていく内に月の初め（5日）15日の間）にイヤになる。この少しの間は言いたいことも控えて、静かにしていること。中頃からスッキリして、いろいろな事に立ち向かって行く。

井は勉強をするところ、お金には縁が無い（水風井も雷風恒も金儲けは出来ない）。相談相手・適切に導いてくれる人に出会う時。出会えて、良い結果が出る。
前半は控えめに、じっくりやる。三月になると変化があり、忙しい。三爻で足腰に気をつける。



本命 八白土星

月命 二黒土星

本命が乾宮にある時は、自分のワクを越えて用事・仕事があり、手を出したい・出掛けたいと大忙しになるところです。また月命が離宮にあり、立場が上になる・責任を負う。能力が現れるところで、評価されるか、批判を受けるか。

運は必ず与えられる時が来る。その時、実力が出せるかどうか。それまでに準備をし、基礎を作っておかなくてはならない。離宮も乾宮も活動力があり、プライド・自我が出やすいので、そこを上手に出していかなければならない。
二月 火天大有 六五
本命が中宮にいますので、問題が長引く・結論が変わってくるので、用心深く進む。十一月に抱えた問題が十二月・一月ときている。人間関係で話をつけなければならぬ事・仕事上改める問題・以前から続いている問題あり。

二月に手を付けたい・答えを出したい、ということ。大有はケリをつけられない時。問題に取り組んでいこう。二月下旬に答を出す。

三月 雷火豊 九三

年月盤が同じ。月命に暗剣がつき、吉凶こもごも。豊は盛ん。二月の勢いがまだ三月まで続いている。九三なのでなるべく中頃までに、しぼる。

本命 四緑木星

月命 二黒土星

本命は坤宮に入り、今年は大地に足をつけ、手堅く行く。次にチャンスをつかめ（そのための準備をする）。まず安定を図る、ということ。
月命はプライベートともみる。離宮は学ぶ・新しい発見・工夫する、手を付けたいと言つものがある。先の方に目が開かれる。指導する立場にいるので、そのつもりで学ぶ。
二月 水風井 九五
学ぶ・繰り返す。初爻・二爻・三爻までは水が飲めないところ。四・五・上爻で予定・意見が通る。

五爻なので、下旬に事が通る。

三月 水雷屯 九五

計画する事には時間が必要。本人は満を持していると思っているが、何で屯？目的が少しハツキリしなくなる。条件が悪い時。家の中でも理解してくれない人がいる。「負うた子に教えらる」下にならなければならぬとき。我が身を振り返ること。

本命 三碧木星

月命 五黄土星

本命は坎宮にいて、「少し我慢しよう」と思う。しかし月命は震宮にいて、「我慢はイヤだ」と時々葛藤がある。坎宮の時は一所懸命の姿で現れる。それが見えれば、みんなから認められる。しかし月命（五黄・震宮）で良い意見を言つても、中々認められない。（坎宮で心配だから）先を見るので、勘が鋭くなる。
二月 水雷屯 六四
屯という流れ、まだ待つこと（一月と同じにする）。

しかし、二月盤は本命が離宮にいき、イライラが出る。黙っていられない。今までガマンしたけれど、ガマンしない、年月盤が対沖。血圧は？

三月 火沢睽 九四

睽で二つのものが出る。子供のことや、周りの人に手を貸す事あり。疲れる。いろいろな事を思案する。本命が坎宮にいてわかってくれたか？と心配し、その思いが自分を苦しめる。

少しイライラが出るが、おだやかに笑うことが、運を変えて行くことになる。
平成二十三年運
「運は、時と共に巡ってくる」
運とは、時間の変化・時間をどのように取り上げるか、という事になる。立春から新しい年としているが、時間とは運動体・変化するということ。十二月・一頃から、その人の星・状況により、翌年のものが入る場合がある。

乗る宮により、出る象意と、出る時期の速い・遅いがある。

* 早めに来るのは

震宮→どんどん進む。

離宮→回転が良い・先を見る・一つではなく、二つのものが複合体になり入り組んでくる。ここはその人柄によって変わる。

乾宮→動きあり・早くなる。

* ゆっくりする・動きが少ないところ

坤宮、坎宮

* ゆっくりしているように、変化を含むところ

艮宮・中宮

* 中宮に入ると、我が出る。立ち往生することあり。周りから見られていて、ウツカリをやると、注意を受ける。調子に乗っている時に途中話を切られるとイヤ。

凶神には、暗剣殺・破れ・五黄殺がある。

今年に兌宮に暗剣殺と歳破がある。先に兌宮・七赤の象意があり、凶神の暗剣・破れは後から来るのである。

兌宮はゆっくりしたい、リラックスするところですが、今年の九紫はそれが中々出来ない(ア・破)。

お金が出る・飲食など派手になる。

言葉では、暗剣殺が付いているので口がすべる・ズバリと言う。我を出して相手に言い返す。皮肉と毒気を持つ。口の角が立つ。九紫暗剣の時は、気になることを言われても、聞き流す事が必要。その人を見なければいけない。

三月は年月盤が揃う。こういいう時は、その通りの事(答)が出る。その運に來た時は、それをやる。避けて通ることとはしない。(しやべる運の時は、おしゃべりをしない。ただし、暗剣や破が付いているなら、それが出来ないように、また前もって準備するなど、注意して行動する。

中宮にいる時の事件は長引く。中宮は我が出る。また被同会にあるものを「内心」とみる。

質問
会報の年筮と個人に頂いた年筮が違うのは？どちらをどう位置付ける？

会報にあるものは全体の共通項として、今年のそれぞれの星へのアドバース・指針。これは体

(理論)。個々人のものは用(応用)。全体のものは大きなワク組みと捉え、両面から見て行きたい。九星が示すところと出た卦が合わないのではなにか? こういう疑問を課題として、様々研究をして行こうとお話でした。

今月も色々な角度からの鑑定方法をご教授いただき有難うございました。心より感謝申し上げます。
山本悠里帆



『百歳の友』

田中 寛子

『高齢化社会』と言う表現が定着して、人、夫々の寿命を「前期」だ、後期」だと区切る制度まで確立し、誰もがこの仕組みの中で人生を全うしようとしている意識に、私

は常々賛同しかねているが、こうした社会構成を無意識に跳め飛ばして、百歳の現実を童女のようには生き生きと暮らしているおチヨさんに、私はゾッコン惚れている。



私のイヤリンケを貸してあげたら...この表情...

『パーゲン物語』

若い頃のおチヨさんは、雪国越後から上京し赤い腰巻をちらつかせて脚絆を巻いて ドツケシヤをいらんかねえ〜と美声を発して『トウキヨウー中を自分の足で回ったんだ』そうだが、その体験がずつと彼女の「土地勘」を支え98迄自称「タダパス」で都内全域を単独で行動させて来たのである。

な遠回りしてでも足代をゼロにする知恵を知っている。

『自慢じゃ無いが新聞は読んだ事あー無いがチラシはしっかり調べとるんだよ...』とパーゲンと知れば暑がるうが...寒がるうが...遠くであるうが...近場であるうが...飛び出して走る技をも熟練して直行する。

しかし...朝飯もそこそこにしてダツシユする為に、時々へまをやり、バスに乗ってから財布を忘れた事に気が付くことがある。

『タダパス持つてんと、時々せ二忘れるんだっぢや...』
私『そんで? どうしたがあ?』
チヨ『戻つたさ...』
私『バスで折り返したワケだな?』
チヨ『当り前よオー。それしか方法ないでねえかあ...』
私『馬力あるなあ...』
チヨ『欲の根性よオ...』
私『ナルホド...』
チヨ『財布握つてからも一度走つたわさあ...』
私『へエツ。聞いてる丈で息が切れらあ...』
チヨ『オレも正直...息、

切れたあ...』
私『百に近い人間のすることぢやないなあ...』
チヨ『へッへ、へ、へ...』
私『まだ百迄はもツツと先じゃ...』
私『氣いつけんとツツ倒れるぞオ...』

チヨ『ウーン。ブツ倒れそうらつたあ... スゴイ人出でなあ... 財布なんか取りに戻つた分... 時間を損してしても...』
10時の開店前らつたども... 山のような人で... あとでテレビのニュースで言うつたよ...』
私『へエツ!』
チヨ『そりやもう押すな... せかすな... で、つぶされそうだらつたがあ...』
ニクトラシイ事に係の人が、このオレに、お婆ちゃん危ないから、列に並ばないで下さい...』
私『言われたかあ...』
チヨ『言われたあ...』
私『そりや... 事故にでもなつてみな... 店の責任なるんだよ...』

チヨ『ここ迄来て... あきらめらんねえ... 三列に並べ... 四列に並べ... っんで大騒ぎらつたども... ドアが開いたらトタンツ。スゴかつたあ... ドオツとみんな雪崩起こしたみてえに、走りだしたあ...』

三列も四列も、へちまも有りやせんわい。私「おちヨさんも走ったがアー？」

ちヨ「走った、走った。あとから押されて走るワケだあ…。人の波が走らせてくれるワケさなあ…」

私「おつそろしい…。潰されたら死んでしまうがねー」

ちヨ「ウンツ。多分なア…」

私「いい加減でバーゲン目当はヤメにせんと…。命取りになるよオ」

ちヨ「止めんでくれんやあ…。オレのイツチ楽しみなんだつちああ…」

特売ともなると一目散に駆けて行くちヨさんには得意の技がある。

「詰め放題」のスピードとその分量のスコさだそつな…。

ちヨ「カアちゃんも“あの真似は出来ねエ”と言ってるがあさ…」

との自信満々のこの作業には店内で人だかりが出るそつだ。

ちヨ「たいがい人は人參と玉葱か、ピーマンよ…。こういう時は結構…男しよが、オレの囲りに集まるんだよ。お婆チャ

ン、詰め方教えてくれ…」つてな。

「手品師みたいだー」なんて褒められるんだがさ…。伊達に百迄、年食って来たワケでねえよオ」

店内で与えられた同一のビニール袋に詰められる丈を詰め込んで同一価格とあれば一本でも…一個でも…余計に収めたいのは人間の業欲だ。

ちヨ「オレ家じゃーお婆ちゃん、お婆ちゃんって気持ちよく、夕飯飯食わせてもらってる身だからのオー。家族の為にチィ〜でも役に立ちたいって思う気イも有るんだでエ…。そんだけどもひと品だけダメら」と言われてるもんが有らあだよ

私「？？？」

ちヨ「生椎茸…。ありやーすぐに足が出るから、ダメだつてエ…カアちゃんにカタアーく止められたが…」

アレは毒に化けるもんなあ…。ごもつともだよなもんではあ…。時々猛毒起こしたりして手エーつけられんくちかぞアー

私「ワツハツハツハア！わかつてんだあー自分こ

とを…」

ちヨ「テメエが一つち、承知してることえ…」

おちヨさんは一昨年、布団の上でコケて右足を複雑骨折してしまい、外出不能となつて…悔しくて…残念で…無念で…

ちヨ「何としてでも歩きエ〜」と言いつつながら百歳の頂上へ登り詰めて 布団の上で足を上げ両腕を伸ばして百回も繰り返している。

時折訪ねる私は階段を上つた踊り場で「来たよオ〜。こんにちわア〜」と一と声かけると襖の向こうで「おちヨは、死んだア〜」と繰り返して来る。

私「アリヤーツ。残念。香典持つてくんかったア」

ちヨ「エツパイ持つて来てくれると思つて死んで待つとつたんになア…」

おちヨさんは今、自力で立ち上がれる迄になつて窓から道行く人達に手を振っている。

二階の窓に立つおちヨさんを、後ろで支えるカアちゃんの笑顔は私には眩しい。

行政に委ねず病院に預ける事なく、ホームにも

依存せず家業の理髪店を息子夫婦と共に支え続けながら、亭主亡き後もおちヨさんを全身で受け止めている姿に…。

「おちヨさんらしく一生を全うできるのは、カアちゃんが居ればこそだよねエ〜」と私は時折おちヨさんをチクる。

「そりゃ そつだよオ。オレが見つけて来た嫁だもん…」

童女の如きおちヨさんが、この時ばかりはキリリとした姑の顔を見せて高らかに笑つた。

おちヨさんは百年の時を越えて意識の狂いも無く再び新しい年を迎えた。

おちヨさんは今、自力で立ち上がれる迄になつて窓から道行く人達に手を振っている。

二階の窓に立つおちヨさんを、後ろで支えるカアちゃんの笑顔は私には眩しい。

行政に委ねず病院に預ける事なく、ホームにも



神社からの帰路…
ちヨ「歩く姿が、写すなやあ〜」

田中 寛子

出会い そして感謝

淵上 禮子



有宵会の例会には毎回出席して、多数の方々の出会いの縁をいただいております、新しい交流が生まれています。

私が初めて寂光院の母にお会いした時のことをお話したいと思います。

それは京都の大原三千年の近くに古刹、寂光院にふと立ち寄ったときでした。

寂光院は京都市左京区大原にある天台宗の尼寺で、山号は清香山。創建は聖徳太子とされるが、空海説、良忍説があります。壇ノ浦での平家滅亡後、安徳天皇の母建礼門院が入門、高倉・安徳両天皇の冥福を祈つた寺。門を入るとすぐに石段があり、見上げるほどの感じの急勾配を上がると、右手に書院です。

ふいに紫色の袈裟を纏つた尼さんが、障子をほんの少し開けて、お付きの方を手招きしていらした

姿に、びつくりするほど眩しい光が指して来ました。私が十二才で別れた亡母に会えた想いで、息が止まってしまつたのではないかと、不思議な体験をしました。

なぜ。どうして。という気持をお付きの方へ話しましたところ「少々、お待ちください」とのこと。

今度は尼さんが、私を手招きしているではありませんか！どうしていいか判らない私でした。

それから書院の中に入れて下さり、嬉しさで涙が止まらず「すみません」と言いながら涙が頬に伝わりました。

庵主さまは「ご苦労なさつたのですね」と言つて私の背中をずつと摩つて下さいました。亡き母に会えた思いと、このとき生きていてよかったという思いが走り、暖かい涙に変わりました。

しばらくしてお釈迦さまの教えや、仏さまが救い下さる道があることを、優しく説いて聞かせていただきました。

この文を書きながら、昨日の事実のように想い

出します。

その時から京都に新しい母が出来ました。

『お母さんと思ってもいいですか』と聞きますと『私で良かったら』と言つて下さいました。

『人間は一生懸命我慢をしていると、その先には必ず良いことが待っているのよ』

『人に対する優しさを育てるのよ』

『どんな経験も無駄なこととは一つもありません』

これからは幸福になりましょうね。母の温かい声が心の奥に残っています。その後庵主さまは、九十三才でご成仏なさいました。

後にわかったことは、普通は電話に出られない方で、禮子さんからですと伝えると、いつも電話に出て下さったそつです。

私の甘えに母と娘のよつに接していただき、こうした関わりは私だけだったと聞きました。心残りは親孝行の一つも出来なかつたことです。

その頃から色々な現象が現われ、不思議な事柄が身近かになるようになります、お友達のご相談を受けたり、お役に立てるこ

とを心がけています。

初めてお会いしたときすでに大僧正でいらした御立派な方が、私の母になつていただいたのは、お礼の言葉がないほど有難いぎりぎりです。

『寂光院のお母様』からそれはそれは沢山のお徳を授けて下さり、心から感謝しています昨今です。

合掌

淵上 禮子

岩槻大師様での鑑定会

森 千紗



新しい年が明けたばかりの、平成二十三年一月一日から一月三日まで、埼玉県さいたま市にある岩槻大師様に於いて、NPO法人 岳易館・有宵会による鑑定会が催されました。

年末には有宵会の方々が納めの大師大護摩祈禱を受け、邪気を払いお不動様のご加護をいただいている縁の深いお大師様です。今回の鑑定会は心に悩みをお持ちの方に易学により、希望の光を見つけ励ましの言葉を届け、NPO法人として社会貢献を図りたいとの福田有宵先生のお考えの趣旨にご住職様が賛同して下さり実現したものです。

岩槻大師様は光岩山釈迦院岩槻大師弥勒密寺と号し、奈良時代末期に開かれた真言宗の古刹です。江戸時代には徳川家康が日光東照宮に葬られた後に、ご本尊が北向きに動いたと言い伝えられ、北向不動と称されました。現在では多くの人々に喜びがもたらされるようにとの願いから、喜多向き不動尊と名称を改め広く信仰を集めています。地下仏殿には四国八十八

か所の御本尊とお大師様を勧請しています。お砂も奉安している為、お遍路巡拝の道場としても知られています。また関東三十六不動霊場の第三十一番札所にも選ばれています。

今回の鑑定会にお見えになつたお客様の、相談内容を一例紹介させていただきます。

昭和三年一月生まれのご主人様が、二年前から肺を患い強いお薬を飲んだ為に肝臓を悪くし、その結果肺の治療薬が飲めなくなつたそつです。

現在、肺の状態は小康状態ですが今後の病状の見通しは如何でしょうか？という奥様からのご相談でした。

本命一白月命六白の離宮傾斜の方です。発症した年の年盤を調べてみまししたら本命は乾宮に同会し呼吸器系統の障害が出やすい年で、月命は坤宮に同会し歳破を持つており元来、弱かつた体の部位に症状が表れたのだと思われました。

本命一白が良宮に同会し変化運に入り、傾斜の離宮には二黒が回座し古い病気の再発が考

えられました。また被同会の三碧は神経が過敏になりやすい状態です。今は病状が落ち着いていらつしやるこの事でしたので、今まで通り通院し体質の変化やお薬が合わない様な事があれば、病院を変えてみる等の対応をしてみてもいかがでしょうか？

その様に対処していただければ今年病状が酷く悪化する事はないと思えますので、注意を払いつつあまり深刻にならず、リラックスして様子を見てくださいとご説明しました。奥様が自律神経を病んで通院中との事でしたので言葉は慎重に選んで話すよう努めました。

落ち込んでいる様子の奥様を見てみると、こちらも心が痛みました。ご主人様が元気になつてくれませんでした。毎回の事ですが相手の気持ちを理解し、納得していただく事の難しさを外占では実感します。

相談者に少しでも良い答えが出せるように、今後努力していく所存です。

森 千紗

福田有宵先生からのお言葉

このお寺は昔から、岩槻のお大師様の名で知られています。岩槻は大宮から十キロ位東に入った所で、お節句の雛人形づくりの伝統工芸の町です。

新年には元朝祈願、初詣祈願に参詣の檀信徒、一般の方々の中には日頃の煩惱を抱えた人々が、多数お参りにおいでになるでしょうから、直接ご相談に応じられるように寺内書院の座敷を鑑定会に提供して下さいます。

境内の賑わい、本堂内ではご本尊の不動明王に諸願を祈念する敬虔なる姿があり、まさしく仏縁を頂いての三日間の鑑定会でした。

佐藤宗暁・牧野有峰 松本彩里・牧野一江 森 千紗の諸先生のご協力をいただきました。

森 千紗

森 千紗

森 千紗

森 千紗

森 千紗

森 千紗

森 千紗

森 千紗

森 千紗

森 千紗

森 千紗

森 千紗

森 千紗

諏訪神社 参拝

伊藤 璃香

去る二月二十七日(日) 柏市豊四季の『駒木のおすわさま』梅の香りの匂うとき、初参りをしました。参加者七十九名。数日前からの寒の戻りで真冬並みの厳しさでしたが、当日は春の兆しの暖かだで柔らかな日差しを受け、喜びのお参りでした。

まず県道から神社へ一歩踏み入れると周囲の家並みの喧騒とは別世界。第一鳥居から石畳を真っ直ぐに進み神門を入れば神域です。

随神門をくぐり、み手洗いで手と口を清め正面の拜殿に向かい挨拶。

左手には古くから伝わるご神水があります。(お水取りも出来ます)休憩後、拜殿に昇り七十九名一人一人の名前と願文が読み上げられ玉串を奉奠、神様とのご対面でした。

その後有名な彫塑家北村西望先生(長崎の平和の像他)作品の数々を拝見してから三々五々食事処へ。

五十三名の方が一緒に多数のためここで自由解散としました。

今回大変残念だったのは皆さまが楽しみにしていらした、名誉宮司様にお会い出来なかったことでした。体調を崩されたとのこと。白寿(九十九才)を迎えられた凜としたお姿を想いながらご回復をお祈り致しました。

この度の参拝も食事処についても木島政之助先生のお骨折りを頂きました。何度も連絡、足を運んで下さり御礼申し上げます。ありがとうございました。

静謐の杜の中での穏やかに心温まる一日でした。

伊藤 璃香 再拝



NPOニュース

平成二十三年三月五日(土) 第二回無料鑑定会

が行われました。

場所 松戸市矢切『まっど市民活動サポートセンター』

午前十時～午後四時
出演者 福田理事長・佐藤副理事長

伊藤璃香・金原太郎・久保田恵都予・高田玲照

千葉一理・濱野延珠
半田晴詠・前田龍徳

松本彩里・森 千紗
八川林加(五十音順・敬称略)

前日三月四日(金) 佐藤・前田様

五日(土) 佐藤・久保田様三名の方が準備、会場整理をスタッフとしてお手伝いをして下さいました。

出演者の皆様もそれぞれの分野でお手伝い。百二十四名の方を鑑定し大変好評を得ました。

皆様のご協力を感謝いたします。ありがとうございました。

NPO法人岳易館・有宵会にご寄付を下さった方(賛助会費として)

鍵和田美津子様・菅原有恒様・佐藤宗眩様・匿名

一名 計四名の方から頂きました。有難うございました。

行事予定 その他

お知らせ

この度の『東北関東大震災』は、未曾有の災害、伝えられる報道に胸が痛みます。被災地の方々に心よりお見舞い申し上げます。

有宵会では少しでもお役に立ちたいと義捐金を募っております。

出来れば教室ごとにまとめて頂きたいと考えております。個別の方は福田先生・事務局へお願いします。

ご協力をよろしくお願い致します。

三月二十六日(土) 有宵会 こども家庭支援センター 開催中止

三月二十八日・二十九日 松戸クロアパーク

研修旅行 開催中止

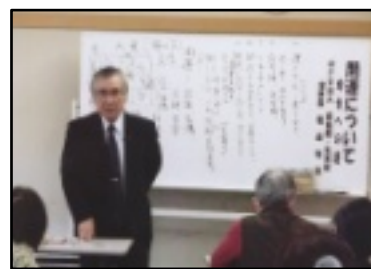
四月二日(土) 綾瀬教室は、開催致します。

(交通機関等の混乱が考えられますので気を付けてお越しください)

平成二十三年一月の例会は六十三名の方が参加されました。

事務局長 伊藤 璃香

事務局長 伊藤 璃香



事務局だより

次回の例会

五月二十八日(土) 午後一時十五分より

『足立区こども家庭支援センター』にて開催

講演

牧野有峰先生 『三元九星の話』

黒江真帆先生 『老後と認知について』